

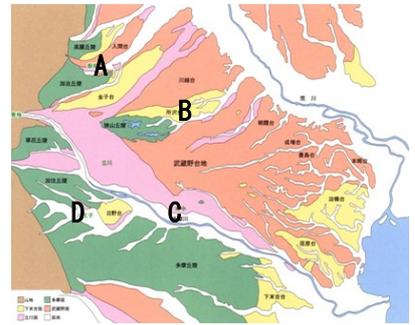
解答と解説

(問題をお手元にご用意下さい)

Q1 の答え B

1章古代(2ページ)より

白黒の図ではわかりにくいですが、記号Bの左下、狭山丘陵の存在が手がかりになります。Aは飯能、Cは府中、Dは八王子に当たります。



Q2 の答え A 源頼朝

2章中世(17ページ)より

伊豆に流罪となっていた頼朝が旗揚げし、関東南部を転戦して鎌倉に落ちつくまでの動きを示しています。同じ関東地方の地図をベースにした26ページの「北条氏領域拡大図」と間違えないで下さい。

Q3 の答え B 年貢割付状

3章近世(48ページ)より

Aの検地帳は、農地の所有者やその収穫量などを記録した土地台帳です。それに基づき、これだけ年貢を納めなさいと通知するのがBの年貢割付状で、すべて納めるとCの年貢皆済目録が発行されます。

Dの女御犬毛付帳は、年貢とは関係のない「生類憐れみの政策」に関する文書です(47ページ)。

Q4 の答え C 沢幸良

3章近世(71ページ)より

妙善院所蔵の市指定文化財「旗本沢氏画像」第二幅です。Bの沢幸純は沢幸良の曾祖父で、第一幅に幸良とともに描かれています。Aの沢吉繩はさらに前の先祖で妙善院を創建した人です。Dは架空の人物です。

Q5 の答え A 有栖川宮熈仁親王

3章近世(69ページ)より

桜木神社の扁額(鳥居などに掲げる額)です。AとBは一文字だけ違います。皇女和宮のもと婚約者で、戊辰戦争の時に官軍を率いたことで有名なのはBの熈^{たかひと}仁親王で、Aの熈^{たかひと}仁親王はその父君です。

Cの勝海舟もしばしば頼まれて筆を取りました。元町東公民館の「求友館」の額は有名です(91ページ)。Dの沢田泉山は、寺子屋の師匠でやはり能書家で知られ、たくさんの作品を残しています。

Q6 の答え D 昭和56年

4章近代(101ページ)より

航空記念公園の木村・徳田両中尉の記念塔です。この問題は「今の場所に」という部分がポイントで、大正3年に墜落地に建てられた塔は数度の移転を経て昭和56年に現在地に移築されました。

Q7 の答え C 狭山茶の質を高めるため技術改良に努力した

4章近代(114ページ)より

市内に多く残る石碑に関する問題です。問題の碑は北岩岡の大野喜三郎の記念碑で、答えはCです。

Aについては沢田泉山の碑が北野天神社に(67ページ)、Bは若山牧水の歌碑が神米金に(109ページ)、Dは磯谷吉光の碑が柳瀬民俗資料館に(75ページ)それぞれ残されています。

Q8 の答え C 航空学校

4章近代(118ページ)より

最初は所沢陸軍航空学校本部として建設(大正9年)された写真の建物は、敗戦によってアメリカ軍の接収を受け、返還後3年ほど所沢税務署として使われ、昭和58年野球場を作るために解体されました。

Q9 の答え A ワルツ

5章現代(144ページ)より

昭和42年に撮影された所沢駅西口の風景です。所沢の表玄関を整備するための市街地再開発事業によって、昭和61年、この場所に西武百貨店を核とする再開発ビル「ワルツ」が誕生しました。

Q10 の答え **B 瑞岩寺**

6章民俗（155ページより）

山口の岩崎地区に伝承されている岩崎彪獅子舞の様子を撮影した写真です。彪獅子舞は毎年10月の第二土曜日に山口の瑞岩寺でおこなわれます。

Q11 の答え **B**

中世の問題です。1は南北朝時代の1353年（22ページ）、2は室町時代の1422年（23ページ）、3は1546年（天文15年・25ページ）、4は1400年代後半（道灌は1486年に55歳で死亡・24ページ）です。

Q12 の答え **A**

近世の文化の問題です。1は1826年（73ページ）、2は1850年（69ページ）、3は1854年（71ページ）、4は1855年（67ページ）です。

Q13 の答え **C**

明治時代の重要なできごとに関する問題です。1は明治32年（95ページ）、2は明治44年（100ページ掲載）、3は明治16年（93ページ）、4は明治30年（112ページ）のことです。

Q14 の答え **D**

昭和戦後期に関する問題です。1は昭和21年（129ページ・松郷や新郷の昭和24年と混同しないように）、2は昭和25年（132ページ）、3は昭和24年（133ページ）、4は昭和22年（130ページ）のことです。

Q15 の答え **B**

昭和46年に6割が返還された基地の跡地利用に関する問題です。1は昭和54年、2は昭和50年、3は昭和55年、4が昭和53年です。基地跡地の施設に関しては171ページ（並木地区の歴史）の一覧表が便利です。

Q16 の答え **B 50**

1章古代（7ページ）より

市内では縄文時代中期の遺跡は事例がもっとも豊富で、ひとつの遺跡から検出される住居跡も多く、大規模な集落が営まれた傾向が読み取れます。

Q17 の答え **D 70**

2章中世（29ページ）より

大堀山館跡は、関連の文献が知られず遺構だけで存在が判明した館跡です。問題に掲載された大きさは、現在確認できている外郭（土塁・堀）の大きさです。

Q18 の答え **C 60**

3章近世（46ページ）より

「鷹場」として指定された村々は、年貢などに関する領主の支配と鷹場の役人による二重の支配を受け、日ごろからさまざまな制約を受けることになりました。鷹狩りの際に提供する労働力もそのひとつです。

Q19 の答え **B 50**

4章近代（100ページ）より

明治44年4月5日、徳川好敏大尉のファルマン機は調子が良くなく、高度15m飛行時間1分とふるいませんでしたが、日野熊蔵大尉のライト機は、2回目で高度120m、18分間の飛行に成功しました。

Q20 の答え **E 80**

5章現代（138ページ）より

この開発で、現在の新所沢駅周辺は山林から一面の住宅地へと一変しました。当時の山林の面影は、緑町中央公園のアカマツなどにほんの一部が残されています。

Q21 の答え **B およそ2万年前～**

1章古代（4～5ページ）より

砂川遺跡は、後期旧石器時代中頃から後半頃の遺跡なので正解はBになります。Aは武蔵野台地で生活の痕跡が確認されはじめた後期旧石器時代の前半段階、Cは縄文時代早期、Dは縄文時代中期の年代をそれぞれ指しています（198ページの年表参照）。

Q22 の答え **D 難波田氏**

2章中世（16ページ）より

村山党の祖、村山貴主頼任のひ孫高範は、富士見市の難波田に移り難波田氏を名乗りました。

Aの河越氏は畠山氏や江戸氏と同じ秩父氏の一族、Bの高麗氏は日高市、Cの加治氏は入間市を本拠とし、ともに丹党の一族とされます。

Q23 の答え **B 丹治泰家**

2章中世（32～33ページ）より

正解の丹治泰家はQ22の加治氏のひとりです。Aの関之隼人尉胤吉は国上寺所蔵の鰐口を奉納した人、Cの越阪部家吉は牛沼の銅造薬師如来の発願者、Dの山口平四郎は北野天神社の天神縁起を修理させた人です。

Q24 の答え **C 300石**

3章近世（38ページ）より

梶氏は松平氏の分家といえます。光助重弘のとき家康に従って関東に入国し、所沢に領地を与えられたが子がなく、その死後梶氏と所沢との関係は絶えました。

Q25 の答え **D 吉田弥右衛門**

3章近世（55ページ）より

Aの川崎平右衛門は武蔵野新田開発に功あった押立村の名主（53ページ）、Bの平塚富蔵は天保14年の日光社参りに動員され備忘録に弁当箱の絵を描きとめた久米村の名主（77ページ）、Cの三上四郎右衛門は寛永16年の所沢市祭文に願主として名を連ねる所沢宿の有力商人（57ページ）です。

Q26 の答え **C 曲水清遊図杉戸絵**

3章近世（62・70ページ）より

Cは青梅出身の絵師、石川文松の作です。なおDの横浜応接場秘図は、三上文晙が信州松代藩の高川家に養子に入り、高川姓を名乗ってから藩の御用絵師として残したものです。

Q27 の答え **C 神谷新田・平塚新田・堀兼新田**

4章近代（87ページ）より

平塚新田の別名は久米新田、堀兼新田は堀金新田とも書いたため、神谷新田の神と合わせて「神米金」の名ができました。

Q28 の答え **D 算盤**

4章近代（89ページ）より

89ページ「所沢学校広告」の左の方をよ～く見て下さい。「学科」とある下に、「英学」「数学」「地理」「歴史」「作文」「読書（「讀」は「読」の旧字）」「理学（「学」の字は異体字）」「化学」「簿記」の9科目が列記されています。

Q29 の答え **A 5時10分**

4章近代（98ページ）より

川越鉄道下り路線の時刻表からの問題です。国分寺から川越までは当時で約1時間、現在は40分弱なので思ったよりも短縮されていないものですね。（駅の数も6駅から13駅へと大幅に増えています）

Q30 の答え **A とんぐり座**

5章現代（134ページ）より

使われた人形は当然手作りですが、目鼻立ちや頬骨などを強調した表情豊かなものでした。135ページに人形を持った座員の写真が掲載されています。

Q31 の答え **B モーレー大佐**

5章現代（137ページ）より

Aは大正8年に来日したフランス航空教育団の団長、Cは某アニメの登場人物、またDについては昭和21年に飛行場の一部開拓を許可した進駐軍の隊長（実際の階級は少尉でした）のお名前をお借りしました。

Q32 の答え **C 弘法大師**

6章民俗（162ページ）より

三つ井戸といえば弘法大師、弘法大師といえば三つ井戸です（所沢では）。

ちなみにAの行基は、聖徳太子に勝るとも劣らない古代仏教界のスーパースター、所沢関係では山口観音の本尊の作者とされています。Bの亮盛は江戸時代の山口観音の僧で、妙善院の祀果とともに狭山三十三観音霊場を考案しました。Dの法然はよく知られているように浄土宗の宗祖ですが、所沢とは特に関係がありません。

Q33 の答え **D 赤くなる**

付録（188ページ）より

「婚姻色」と呼ばれます。産卵期は3月下旬から7月下旬です。

Q34 の答え **B 大字坂之下**

付録（194ページ）より

東川は大字坂之下と大字城の境を流れて柳瀬川に合流しますが、合流点は微妙に大字坂之下です。

Q35 の答え **C**

付録（190～193ページ）

Aは所沢地区、Bは小手指地区、Cは長栄寺を除き吾妻地区（長栄寺は牛沼のお寺なので松井地区です）、Dは柳瀬地区の神社・寺院を集めたグループです。

Q36 の答え **東山道**

1章古代（12ページ）より

東山道は道の名前であるとともに律令制下の地方行政区画でもあります。東山道は近江、美濃、飛騨、信濃から上野、下野を経て出羽、陸奥に至りますが、下野でその本道から分かれ、南下して武蔵国府へ向かうのが東山道武蔵路です。当初は東山道に属していた武蔵国は700年代後半に東海道に所管換えされ、おそらくこの道のありようも変わっていったと推測されます。

Q37 の答え **廻国雑記**

2章中世（35ページ）より

聖護院門跡の道興は、本山派修験の組織化と応仁の乱で焼けた堂宇の再建のため、文明18年から約1年間東国を巡りました。所沢にも立ち寄り、観音寺で酒と山芋のもてなしを受けて「野遊のあそびのさかなに山のいも添えてほりもとめたる野老とこざわ沢かな」の歌を詠みました。観音寺は宮本町の新光寺といわれます。

Q38 の答え **論語子路篇**

3章近世（44ページ）より

弟子冉有の問いに対し、国が栄えるにはまず人口を増やすようにと、それが果たせたら次には生活の向上を（「富」）、それも果たせたら最後は教育の充実を、と孔子が答えたという一節から名付けられています。

Q39 の答え **吾木香**

4章近代（109ページ）より

大正10年2月に東雲堂から出版されました。

Q40 の答え **ディケイター**

5章現代（146ページ）より

スペルはDecatur。アメリカはイリノイ州にあります。米軍基地に長く勤めたV・ミラー氏の出身地で、当時の所沢市と人口や産業構成、また人造湖があるなど似ていたことから昭和41年に締結に至りました。

挑戦していただいてありがとうございました！